は非ず、然るに此の時可汗が和親を請ふや、前に述べたるが如く、德宗は回鶻に對する怨恨の爲に之を肯ぜざりしが、宰相李泌の諫を聽きて、遂に咸安公主の降嫁を許すに至れり、新唐書公主傳に依れば、咸安公主は德宗の第八女なり、帝が前恚を棄てゝ其の女を可汗に嫁せしむるに至りしものは、當時吐蕃に對する政策上、李泌の十數回に及べる上言に基けり、其の次第は詳かに載せて通鑑貞元三年九月の條に在り、要するに回鶻と和して吐蕃を制せんとしたるものにして、帝も遂に志を屈して其の議に從ふに至れり、而して此の和親を結ぶに當り、通鑑によれば李泌は回鶻に對して

稱臣爲陛下子、每使來不過二百人、〔一一〇〕印馬不過千疋、無得携中國人及商胡出塞

の約を結びたりしが

既而回紇可汗遣使上表、稱兒及臣、凡泌所與約五事、一皆聽命

と曰ひ、唐書回鶻傳にも

約用開元故事、如突厥可汗稱臣、使來者不過二百、市馬不過千、不以唐人出塞

と記し、貞元四年可汗が宰相跲跌都督等千餘人及び其の妹以下大酋の妻五十人を遣し公主を迎ふるや、

可汗上書恭甚、言昔爲兄弟、今婿半子也、陛下若患西戎、子以兵除之

と奏せりと記せり、回鶻が急にかゝる態度を採るに至りし所以に就きては、何等特種の理由の其の內部に存したるものとは考ふ可らず、只だ新たに唐の天子の女を迎ふるの約を得たるが爲に、敢て舊來の關係を更めて親善の態度に出でんとしたるに外ならざるべきを推し得ると、又當時の宰相にして、專ら兩者の親善を畫せし李泌が、早くよ